

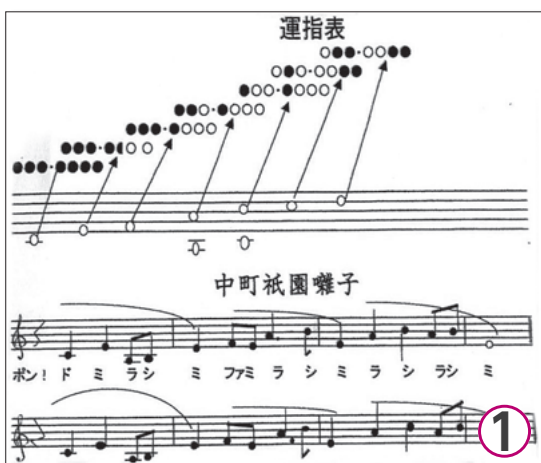
市民記者が行く！広報サポーターレポート

西尾小学校 祇園クラブ(囃子方)



広報サポーター
鈴木正樹さん(馬場町)

西尾小学校・祇園クラブは、このおしゃれな名前のクラブは、西尾小学校の児童が地域の住民の皆さんとの交流をもっと深めようと始めた活動の一環で、西尾祇園祭に関わる伝承文化を継承することを目的として作られました。このクラブからは、市指定文化財である「肴町の大名



行列」の演技者、そして「中町の大屋形」の巡行に帯同する囃子方が選ばれます。今回は中町の皆さんに同行し、囃子方の指導を取材することにしました。毎年、新メンバーが集まるのが6月であるため、祭りまでの猶予はごくわずかです。10人ほどの子どもたちを限られた時間の中で、歩きながら吹けるレベルまで仕上げなければなりません。笛には運指表はあっても譜面はありません。太鼓などたけば音の出るものと違って、まずは音を出すことから始まります。

そこで、伝統からは外れますが、西洋音楽で広く用いられている五線譜に旋律を落とし、運指表も付記した和洋折衷の譜面(写真①)がメンバーに配られました。まずは大声で「ドミールラシニ」と階名で歌ってみると、すぐに覚わったので、次に笛を持ち、そのメロディーを吹いてみました。風の音しか出なかったのが、間もなく一つのメロディーになり、次はきれいな音を出す段階へと変わっていききました。

27年7月19日午後6時、中町の法被を着て大屋形の周りに集まったメンバーは、周囲の観衆を意識しつつも意気盛んに街へ繰り出していきました。人混みでもみくちゃになり、また、大雨でびしょぬれになりながら演奏を重ね、祭りの熱気の中、子どもたちの挑戦が終わりしました。(写真②)

例年はここでクラブは解散となるわけですが、今年はさらに半年、活動が続けられました。祭りへの参加という一大目標を失ったメンバーに、どうやって新たな動機を与えるかを中町の皆さんが考えた結果、新曲に挑戦して披露できるようにしようという練習を開始しました。「中町太鼓囃子西小バージョン」と命



名し、練習を重ねることに盛り上がりていきました。町内の板金屋さんがすてきな台車(写真③)を作ってくれ、気分にも一層拍車が掛かったようでした。最後の練習の日、台車に太鼓を載せて練習場内を練り歩き、新曲を披露しました。そして、メンバーと中町の皆さんの大きな感動とともに27年度の祇園クラブは解散となりました。

夏も近づいてきました。今年の西尾祇園祭でも西尾小学校の祇園クラブの演奏が練り広げられることでしょう。祭りで中町の大屋形が目に入ったら足を止め、演奏に耳を傾けていただきたいと思います。

広報サポーターは、公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で、市内各地のイベントなどを取材していただきます。